



Title	觸媒談話會記事
Citation	觸媒, 6, 84-84
Issue Date	1950-02
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/22416
Type	bulletin (other)
File Information	6_P84.pdf



[Instructions for use](#)

が $e^{-\frac{E_B}{RT_2}}$ によつて速度が観測し得る程度の大きさを有し、且つ $E_B + \lambda_B$ が充分大きいと逐次 B 区域は弊はれ A は空になつてゆく、實際の觸媒面はこのやうな簡単な模型であらはずと考へられるが、このやうな状況が或る水素壓及び温度の下で與へられるとすれば上述の特徴ある實驗事實が説明出来る。温度の上昇によつて脱離する水素が觸媒面で Van der Waals 吸着をして居たとする考へかたもあるが、低温度に於ける窒素の物理吸着と比較検討

することによりこの可能性が除かれる。

Kingman 及び Garner (Nature 126 (1930) 352) の $ZnO-Cr_2O_3$ に對する水素及び一酸化炭素の吸着 Beebe 及び Dodden (J. A. C. S., 60 (1938) 2912) の Cr_2O_3 ゲルに對する水素の吸着, Eucken (Z. Phys. Chem., B 64 (1939) 163) のニッケルに對する水素の吸着等に於ける觀測は何れも觸媒面の不均一性を示す本研究の結果と調和する。(管)

觸媒談話會記事

第 27 回 觸媒談話會

昭和 23 年 11 月 20 日 午後 1.30

於 觸媒研究所雜誌室

1. 純鐵及びアンモニア合成用鐵觸媒に對する水素、一酸化炭素及び炭酸ガスの吸着に就て

管 孝 男

2. 物理吸着に關する最近の諸研究 (紹介)

Jura, Harkins の論文を中心として

慶 伊 富 長

第 28 回 觸媒談話會

昭和 24 年 3 月 8 日 午後 1.30

於 低溫科學研究所會議室

白金並びにセレン被膜ニッケル觸媒による N 點現象の機構に就て

金 子 義 久

第 29 回 觸媒談話會

昭和 24 年 3 月 10 日 午後 1.30

於 低溫科學研究所會議室

金屬觸媒面の均一並びに不均一性に就て

Ni, Pt, Co, Fe, W 及び I.G. NH_3 合成觸媒の表面

管 孝 男

第 30 回 觸媒談話會

昭和 24 年 3 月 16 日 午後 1.30

於 低溫科學研究所會議室

1. ニッケル觸媒上に於けるエチレンの吸着及び分解に就て

松 下 三 十 郎

2. アンモニア合成反應の活性化熱に就て

管 孝 男

3. 靑酸合成用硫酸觸媒の研究

矢 野 武 夫

石 塚 和 彦

4. エチレンと過酸化窒素との反應

竹 内 豊 三 郎